

第 10 回ひろしまジュニア国際フォーラムの開催結果について
(被爆・終戦 80 年「若者たちが集い、未来に平和をつなぐプロジェクト」)

1 要旨・目的

国内外の高校生等が国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信することを通じて、次の世代の人材育成を行うことを目的とした「第 10 回ひろしまジュニア国際フォーラム」を次のとおり開催した。日本を含む 24 か国の高校生が討議・交流等を行い、とりまとめた広島宣言を発表した。

2 現状・背景

平成 28 年度に第 1 回を開催し、今回は 10 回目の開催。

3 概要

- (1) 実施主体 広島県
- (2) 実施期間 令和 7 年 8 月 14 日（木）～18 日（月）の 5 日間
- (3) 場 所 広島国際会議場等
- (4) 実施内容
 - ア テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること
(核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組)
 - イ 参加者 高校生 85 名
○日本人高校生 45 名（県外高校生 10 名を含む。）
○外国人高校生 40 名（23 か国）

[外国人高校生の招へい国]

(五十音順)

区分	国名	人数
海外から参加	イタリア(2)、エジプト(2)、カザフスタン(2)、韓国(2)、中国(2)、ドイツ(2)、ニュージーランド(2)、フィリピン(2)、米国(2)、メキシコ(2)	20 名
国内から参加 (留学生等)	イタリア、エジプト、オーストリア、ガーナ(2)、カナダ、コスタリカ、シリア、スイス(2)、スーダン、スリランカ(2)、タイ、ドイツ、トンガ、フィンランド、米 国、ポーランド、マレーシア	20 名

※ 海外からの参加者のうち、中国、米国、メキシコ、韓国からの参加者（下線部）は、本県の友好提携先等である四川省、ハワイ州、グアナファト州、慶尚北道からの招へい者。また、イタリア、ドイツからの参加者（波線部）は、G7 広島サミットの成果を受け、G7 各国に派遣した「若者たちのピース・キャラバン」において一昨年度訪問した高校からの招へい者。

ウ スケジュール

日 時	行事内容
8 月 14 日（木）	オリエンテーション、基調講演、平和記念資料館視察、チームビルディング、講義・グループディスカッション（核兵器廃絶）、歓迎交流会
8 月 15 日（金）	被爆体験証言聴講、講義・グループディスカッション（復興・平和構築）、広島宣言の草案作成
8 月 16 日（土）	平和記念公園・宮島視察
8 月 17 日（日）	広島宣言の確定、報告会準備
8 月 18 日（月）	報告会（広島宣言の発表等）

(5) 広島宣言の内容等

広島宣言の内容は別紙仮訳のとおり。なお、同宣言は、国連や外務省等の国際関係機関等へ送付するとともに、県の SNS・ホームページ等で情報発信する。

(6) 予算（一部国庫）

27, 869 千円（国 2/3・県 1/3）

4 関連情報

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/peace80/action-international-forum.html>

(ひろしまジュニア国際フォーラム開催の様子)



基調講演



チームビルディング



被爆体験証言聴講



ディスカッション



グループ発表



広島宣言の作成作業



宮島訪問



知事への広島宣言手交

ひろしまジュニア国際フォーラム 2025 広島宣言（日本語訳）

前文

私たち、24 カ国からの参加者 85 名は、原爆投下から 80 年目にあたる 2025 年 8 月 14～18 日に開催された第 10 回ひろしまジュニア国際フォーラムに集いました。本フォーラムの目的は、若者たち、そして核兵器廃絶をはじめとする地球規模の課題のパイオニアとしての広島市の重要性を強調し、平和構築を通じて世界中のポジティブな変革に影響を与え、より良い明日へつなげることです。

今回の素晴らしい機会、そして学んだ全ての教訓に対して、広島県に心から感謝します。高名な講師陣によるハイレベルな講義はもちろん、ヒバクシャの方の証言、さらに活動に真剣に取り組む若者たちに会う機会まで提供していただきました。フォーラムを通じ、私たちは多国間における意見交換や文化交流、そしてオープンマインドを忘れずにいることの必要性を理解しました。今日この日から、核兵器のない平和な未来に向けた私たちの旅が始まります。

5 日間にわたって、私たちは平和と紛争の複雑な関係性について深く知りました。核兵器がもたらす壊滅的な影響、そして核廃絶を妨げる障害についても学びました。今回のフォーラムは、核兵器をめぐる世界政治の現状と、焼け跡からの広島の復興について、深い理解をもたらしました。さらに、私たちはこれらの問題に若者が果たす極めて重要な役割や、現在と将来に向けて行動を起こすために欠かせない姿勢を身につける必要性を痛感しました。そうして、フォーラムは平和な未来へのひたむきな取組を新たにさせるきっかけを与えてくれたのです。ここに広島宣言の採択を宣言します。

核兵器廃絶の課題と解決策

課題

近年、核軍縮の進展は鈍化し、核兵器廃絶はいまだ実現していません。この分野には、全ての核保有国による核兵器の近代化と強化など、核兵器をめぐる現在の問題があると認識しています。

私たち若い世代の認識では、原子力の平和利用に対する透明性と説明責任の欠如は更なる核拡散を引き起こしかねません。同時に、理解の欠如につながり、核兵器廃絶の遅れを招くことで全ての人々にとっての危機となります。

核保有国は、核兵器の保有を自国の安全保障目的だけではなく、技術的な先進性の象徴としてみなしており、自分たちを弱い立場に置くことなく核廃絶に向けた国際的取組を支持することが難しくなっているのではないかと私たちは把握しています。

解決策

特定した課題に対応するため、私たちは以下の必要性を認識しています。

- 国家間及び国民間の信頼と相互理解を育む
- 核兵器とその危険性について理解を深める
- 世界中で「核のタブー」を強化する
- 核兵器廃絶に関するメディア報道の効率性を向上させる
- 核兵器廃絶に向けた課題に取り組む必要性を人々に納得させる

核兵器廃絶に向けた若い世代の役割

教育

私たちは平和教育を通じて、核兵器の無益さへの意識を高め、核兵器のない世界を目指して活動する新しい世代を育てていきたいと考えます。

広島と長崎が示すように、核兵器の使用は広範にわたる破壊と甚大な人的損失を引き起こします。この力は国家安全保障を目的としたものとされますが、人類側に圧倒的な規模の大きな犠牲を伴います。平和は、核兵器以外の手段で達成できると私たちは信じています。

広島滞在中に、地元の小中学校で平和教育が確立されていることを知りました。このような平和教育の推進において、私たちは貢献することができ、また広島は世界で平和教育を義務教育とする運動の出発点になれると考えます。終戦から 80 年の間に、原爆被爆者の人数が年々減少してきていることを忘れてはなりません。原爆被爆者の体験談を伝えていく点で、平和教育は欠くことのできない役割を果たしてきました。

私たち若い世代が原爆被爆者のメッセージを次世代へ引き継いでいく語り部に加わるようにするためには、平和教育を強化し、広め、続けていくことが不可欠だと信じています。

情報と知識の普及

私たち若い世代は、ソーシャルメディアの力を通じて、核廃絶の理念を国際的に広めることを約束します。これらのプラットフォームを利用すれば、情報や知識へのアクセスを改善し、拡大すると同時に、国際交流を強化し、促進することができます。さらに、私たちの世代は核廃絶という世界の重要課題を同世代の仲間はもちろん、地元のコミュニティの年下の世代、そして年上の世代にも共有して広めるよう努めるべきです。例えば、地元新聞や学校新聞、その他のメディアを使って、次世代に幼い頃から核廃絶の理念を伝え、私たちがここで学んだ教訓を継承することができます。

体験談と声

私たち若者は、英語だけでなく他の言語も使って、原爆被爆者の声と自分たちの声を結びつけ、ソーシャルメディアで世界に発信することができます。また、ヒバクシャへのインタビュー動

画を制作し、決して忘れてはならない彼らの声や体験談を広めることもできます。小さな規模から始め、時間をかけてだんだんと拡大し、改善できます。将来的に考えられる1つの方法は、AI技術などの手段をサポートとして活用し、アート、書籍、その他のメディア形式の作品の創作に役立てることで、人間活動の独自性と原爆被爆者（ヒバクシャ）の体験談が持つ感情的な深みを保ちながら、私たちはその体験をより国際的に広めることができます。

核兵器廃絶に向けた広島役割

新しい文化

広島には、メディア、アート、テクノロジー、そして観光を通じて、新しい形の平和文化を築くことを期待しています。例えば、広島平和記念資料館の巡回展をさまざまな国で開催し、所蔵する資料や証言に世界各地の人が直接触れられるようにすることもできるでしょう。国際的に展示を共有することで、海外のコミュニティが歴史的遺物や被爆者の体験談に直接アクセスできるようになり、核兵器の壊滅的な影響への世界的な理解が深まります。

加えて、AIを利用して資料館内でヒバクシャとの双方向型の対話を実現し、遺産を生かし続けることもできるでしょう。原爆に関するアーカイブのデジタル化も可能かもしれません。さらに、1945年8月6日と9日に広島と長崎で起きた核による恐ろしい出来事を視覚的に表現する映画やアニメーションの制作に広島が投資するとよいのではないかと思います。

核兵器禁止条約と核兵器廃絶の主導

広島は、核兵器禁止条約（TPNW）の主導的な提唱者として存在感を発揮し、核兵器の保有国に条約への参加を説得するよう務めるべきだと考えます。核兵器廃絶サミットの中心拠点になり、平和な未来に向けて国連と協力していくべきです。広島には、核兵器のない世界の実現に向け、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）などの国際NGOとの連携を一層強化することが望まれます。核軍縮に向けた第一歩を踏み出すには、十分な資金による研究と、放射能の悲惨な危険性に関する国際的な知識の普及も極めて重要です。

教育

広島は、核兵器に関する認識を世界の人たちと共有し、平和や核兵器廃絶について意見交換する場となるとともに、世界中の人が集い、学び合うプラットフォームを構築・維持していくべきだと考えます。広島には、核兵器について世界中の人との意見交換を進めるための教育を若者に提供することが期待されます。第二次世界大戦や核兵器の歴史的背景、国際情勢、そして平和の重要性について学習する機会を多く設けることで、討論や発表を通して他者と意見を共有する力を育てることができます。こうした能力は、近年ますます必要とされています。

加えて、広島県にとって重要なのは、教育機関と連携し、若い世代の英語力を向上させ、世界中の人たちと核廃絶について意見交換できるようにすることです。これにより、若者は広島の悲劇を自分の言葉で世界に伝えられるようになります。また、原爆被爆者の英語を話せる伝承者の育成にも貢献することになるはずです。

より平和的な世界に向けた課題と解決策

認識の欠如

デジタルメディアと通信プラットフォームは急速に発展しているものの、戦争と平和の問題に関する一般市民の意識は驚くほど低いままです。この一因として、情報が個人の関心によってフィルタがかけられたり、コントロールされたりすることが多く、日常生活が関心の中心である人には重要性に欠けるトピックであることが挙げられます。世俗的な関心事に気を取られるあまり、地球規模の問題には取り組まず、遠く離れた無関係なこととして認識しがちなのです。この蔓延する無関心は、世界平和の達成に対する深刻な障害になっています。不十分な情報や誤った情報を与えられた人たちは、意味のある変化を支持する可能性が低いばかりか、さらに悪いことに、紛争を永続させる体制を意図せずに支持しかねないためです。

この問題に対処するには、協働的かつ包括的なアプローチが欠かせないと考えます。政府、教育機関、メディア、市民社会の間の協力は、情報への自由なアクセスを確保し、積極的な市民参加の文化を育むのに役立ちます。さらに、社会階層間の生活条件の平等性を高めることを追求し、機会を狭める硬直化したヒエラルキーを打破するべきです。より平等で情報に通じた社会をつくることでのみ、長く続く平和の基盤を確立し構築することができるのです。

誤った情報の危険性

もう1つの問題は、誤った情報です。これは多くの場合、正しい情報へのアクセスの不足と組み合わせ、人々を閉鎖的な姿勢や偏った見方へ導きます。例えば、ソーシャルメディアは複雑なアルゴリズムを使って、私たちに関連性が高いと判断した結果を表示します。特定の質問やトピックを検索すると、アルゴリズムはこちらのフィードに対して引き続きストーリー、リンク、動画を表示しますが、異なる視点を与えてくれそうな情報を含んだコンテンツなど、アルゴリズムが除外すると判断したコンテンツは少なくなります。結果として、これが外国人嫌悪やナショナリズム、その他の形式の差別が増大する理由の1つになっています。

この問題を乗り越えるため、私たちは一連の解決策を提案します。最も重要な解決策の3つは、教育の向上、インターネットリテラシーの強化、そして全ての人々に影響する地球的規模の問題への認識を確実に持つことです。共通の価値観を生み出すには、自分の意見や考えを表明しながら、他者の考えにも耳を傾けなければいけません。つながりを保ち、平和のメッセージを広めるためには、正確な情報を入手することも必要です。その他の解決策として、国内外を問わず社会全体で協働することが挙げられます。最終的には、異文化交流、宗教間・非宗教間の対話、相互理解を通じて、国家レベルで社会階級間の平等を高めていくことです。

経済的な格差

資源の不平等な分配は依然として存在し、構造的な暴力を引き起こしています。基本的なニーズを満たすだけの余裕のない人がいるにもかかわらず、社会で最も困窮している層が生活手段へのアクセスを制限され、場合によっては奪われることすらある不幸な状況がいまだに存在するためです。富裕層に公平な課税を行わず、あまり裕福でない層に過度な負担を課す分配システムによって、問題は深刻化しています。

こうした社会的な不平等に加え、開発途上国では効果的な福祉プログラムが欠如し、貧困層の状況を極めて不安定にしています。この課題を解決するためには、国際社会は開発途上国へもっと投資する必要があります。さらに、無償で質の高い教育を提供し、開発途上国の人たちが批判的思考力を学んで磨き、イノベーションと明確な思考プロセスを育めるようにする必要があります。加えて、人々に自由を与え、さまざまな人生の選択肢から自分で選択できるように、幸福度を高めることが極めて重要です。

平和なコミュニティと社会を構築するための若者世代の役割

情報の完全性の確保

私たち若い世代は、ネガティブなものを助長する誤った情報、ディープフェイク、アルゴリズムに影響される世界で暮らしています。ソーシャルメディアは国境を越えた人とのつながりを可能にしてくれますが、意見を偏らせたり、否定的な固定観念を押しつけたりすることで、社会の分断も引き起こしかねません。情報を安全に利用し、責任をもって共有することは、私たち次第です。

そこで、私たちは情報の完全性を確保するよう尽力していきます。公開前に事実を検証し、信頼できる情報源から得た包括的なコンテンツを提供します。私たちは間違いを公式に訂正し、コンテンツを世界で広く使われている言語に翻訳し、AIによって生成されたコンテンツには明確な表示をつけます。ソーシャルメディアを活用して科学者、教師、ジャーナリスト、平和構築に取り組む方々に地元の声を届け、被爆者の証言を偏見や先入観なく世界中に共有することを目指します。もちろん、平和はスマートフォン、タブレット、コンピューターの画面を超えて実現し、存在しなければなりません。私たちは、思いやりと敬意のあるアプローチを奨励していきます。

より良い世界を創出するための姿勢

私たち若い世代は、個人レベルにとどまらず、社会レベルでも理解、思いやり、優しさを広めることに取り組みます。私たちが現在暮らす世界は、数多くの不正や苦しみに直面していますが、平和へのカギは互いに共感しあう力です。

より良い世界を創るには、他国を理解し、あらゆる人のニーズに配慮する必要があります。私たちは熱心に耳を傾け、憎しみをもたずに異なる意見を述べ、妥協に開かれた姿勢を持ちます。多くの戦争や紛争は、自己を優先する傾向に根ざしています。この思考プロセスの致命的な欠陥を克服するカギは、この傾向が相手に何をもたらすかを意識し、自覚することにあります。私たち自身の間で平和的な関係を育むことは、国際理解を促し、世界平和の構築を高める上で極めて重要です。

政治への取組

私たち若い世代は、政治問題にも取り組まなければいけません。権力者は多くの場合、奉仕する相手であるはずの国民と同じ問題に直面していません。人々が日々直面している日常の課題を権力者に認識させるのは、私たちの役目です。

この課題を克服するため、私たち現代の若者は自分の意見を表明するよう後押しされる必要があります。つまり、私たち自身を含め、全ての若者に、全ての票に意味があることを教える必要があるのです。私たちの多くはまだ選挙権年齢に達していませんが、それでも自分の意見を大人と交わすことはできます。若くても、私たちの言葉には人々の考えを変える力があるのです。

平和構築に向けた広島役割

広島は、想像を絶する喪失の焼け跡から再生した都市です。私たち世界中の人々がその証人です。こうした経験は私たちに絶望させるのではなく、希望を抱かせ、行動を起こすよう促します。いかなる都市も、町も、村も、二度とそのような苦しみを味わうべきではないと確信させます。私たちの歴史は、悲しみを行動へ、破壊を希望へ転換するように私たちを駆り立てるのです。

現在の主導的役割の継続

広島は世界中に平和を訴える上で、重要な役割を担っています。広島は和解と復興の最たる模範として機能し、戦争の残虐性といまだに残る住民への影響をはっきり示しています。残虐な出来事の結果、広島は教育、展示、ワークショップ、地域活動、そして今回のような国際フォーラムの主催を通じて、平和を推進する主導的役割を果たしてきました。これらは全ては平和な世界を実現するために、中断すべきでない必要な取組です。

さらに、広島には様々な形の伝承を推進し、もっと多くの人々が臆することなく平和について学び、語ることができる場所の創出が望まれます。戦争の悲惨な現実を伝える一方、文化・芸術的表現など、戦争と平和というトピックへの取組に対する抵抗感を和らげる多彩なアプローチも求められます。新しい主導的役割は重要ですが、変化が遅くも、広島に現在の平和構築活動を続けていくことを期待します。

レジリエンスと協力の主導的な推進者に

広島は、復興と平和構築は可能性があるだけでなく、実際に達成できることを示す生きた手本です。広島は率先して、その成果を共有し、経験に基づいた助言や支援を他国に提供すべきです。「ひろしまラウンドテーブル」のような機会に、多様な国々による議論や交渉、平和構築のトピックを増やして広げていくことが極めて重要です。個人やコミュニティによって平和の認識は様々ですが、対話を通じて共通点を見つけ、紛争の根本原因に対処し、共通の目標に向かって足並みをそろえることが必要です。

さらに、広島は指導者として役割を果たし、他の都道府県が独自の平和プログラムを始動できるよう支援するべきです。現在は全国的に標準化された平和教育制度がないため、日本の都道府県間で地域格差があり、一部の地域は平和構築活動の基盤が整っていません。平和教育は教師個人、また各学校に大きく依存してしまいます。新しいプロジェクトをゼロから立ち上げるのは難しいため、広島がアドバイザーになり、同時に先例を示し、他の地域を支援して平和教育を全国に展開し、個人のグループが独自の平和プロジェクトを始める意欲を与えることを期待します。

最後に

広島の悲劇から 80 年を経て、私たちは絶え間ない暴力の脅威が人類の汚点となっていることを学びました。しかし、焼け跡から立ち上がり、明るい未来を創りあげた人々の意志と可能性も目の当たりにしてきました。広島からの切実な声、絶えることのない平和への訴えに、私たちは深い感銘を受けてきました。そうした声は、惨状と傷跡を未来の平和に向けた教訓と希望へ変えてきたのです。ゆえに、核兵器のない世界、銃撃や砲撃のない世界はむなしい夢ではなく、具体的で揺るぎない目標であり、実現しなければならず、また、必ず実現されることを私たちは確信しています。持続可能な方法で平和を達成することは、私たち全てにとって喫緊の優先課題です。

未来を担う若者の代表として、私たちはここに謹んで宣言します。私たちはそれぞれの居住地に戻った後、学んだ決して忘れてはならない体験談を家族に、友人に、同僚に改めて伝えます。沈黙の慣習に従うことも背を向けることも拒み、代わりに毅然とした態度で、信念をもって語ります。経済や政治の根本的な構造に対処することは、私たちの究極の責務です。私たちは教育者としてのスキル、知識、創造性を駆使し、抱いた夢を共有していきます。約束を行動へ、恐怖を理解へ、そして分断を協力へと変える世代になります。広島での時間を単発の交流で終わらせずに、いつまでも続く対話と生涯にわたる平和への取組の始まりにしましょう。

2025 年 8 月 18 日